

中学校卒業時の進路選択に関する一考察

—知的障害のある生徒と保護者の意識調査—

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 久留 康裕

1. はじめに

文部科学省(2022)は、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査を実施している。知的発達に遅れはないものの、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合が、小学校・中学校において8.8%、高等学校においては2.2%であったことを公表している。また、特別支援教育を担う教師養成の在り方等に関する検討会議(2022)においては、全ての新規採用教員が10年目までに2年以上、特別支援学校などでの指導を経験するべきとの提言案が出されている。

このように特別支援教育の必要性が高まる中、教師の様々な指導力向上に関する取り組みの充実が図られている。そのような状況の中で進路指導に関する取り組みの充実も図られるべきであろう。知的発達に遅れはなく、学習面などに著しい困難を示す生徒も、知的障害のある生徒も中学校卒業時には、進路選択の場面を迎える。我々教員は、このような子ども達にどのような進路指導を実践していくことが望ましいのだろうか。

文部科学省(2011)は、中学校キャリア教育の手引き進路指導の定義において、「進路指導とは、生徒みずから、将来の進路の選択、計画できるように教師が組織的、継続的に援助する過程である」と示している。このことを踏まえるならば、特別な支援が必要な生徒に対して、スモールステップで何度も繰り返し進路について考えさせたり、オープンスクールを活用して直接授業を体験したりする学びが重要といえるのであろう。

山梨県教育委員会(2022)は、山梨県の中学校特別支援学級卒業生の進路状況の推移を公表

している。そのデータには、令和3年167名の進路先が掲載されていて、高等学校の全日制、定時制、通信制、特別支援学校高等部が主な進路先となっていることが分かる。障害種別の進路先など詳細については示されていないため、知的障害のある生徒の主な進路先は見取ることができない。しかし、一般的に学力が問われる入学試験において、知的障害のある生徒が進路決定に至るまでの過程は様々な葛藤があることが予想される。

昨年の課題研究(久留2022)において、中学校特別支援学級の担任4名にインタビュー調査をした結果、2名の教員が生徒の実態や希望に応じた進路先がないことを悩んでいることが分かった。また、渡邊(2013)は、中学校卒業後の進路先で不本意入学に至った発達障害のある中学生の事例を挙げている。筆者自身も所属校において、そのような生徒を指導した経験があり、障害のある生徒の進路指導の難しさを実感することがあった。そして、生徒がそのような状況にある際には、生徒と同様に保護者も進路選択に悩んでいることを、これまでの教職経験から感じるところである。

これらを踏まえ、知的障害のある生徒と、その保護者の進路に関する意識調査を行い、両者の進路選択・決定に至る因子等を探り、中学校卒業時のよりよい進路指導への方策立案に寄与することを本研究の目的とする。

2. 研究の方法

筆者の所属校生徒と保護者などを対象にして、質問紙調査を行う。

(1) 調査対象者

- ・ 中学校3年生と保護者各 43名 計 86名
回答数：中学校3年生生徒 43名、保護者 43名 計 86名
- ・ 所属校生徒と保護者各 105名 計 210名
回答数：所属校生徒 79名、保護者 84名 計 163名
- ・ 中学校卒業生(現高校生、社会人)と保護者各 9名 計 18名
回答数：所属校以外の卒業生 6名、保護者 6名 計 12名

(2) 調査日

- ・ 中学校3年生と保護者については、所属校で実施している2回目の教育相談時に調査を行った。なお、事前に調査内容や入学試験の可否に影響しないことなど、研究についての説明を行い、調査へ協力いただける方を対象とした。
- ・ 所属校の生徒と保護者については、2022年9月22日に質問紙等を配付し、約2週間後を提出期限とした。
- ・ 所属校以外の中学校卒業者と保護者については、2022年10月14日に配付し、返信は郵送とした。

(3) 調査内容

質問紙は、堀井(2022)を参考にしながら作成し、A4サイズで両面1枚とした。表面は、表1の通りである。進路に関する相談相手などについて、4件法で尋ねた。裏面は、表2の通りである。進路について考え始めた時期や進路に関する悩みなどを自由記述とした。なお、調査対象者に応じて設問文や設問内容を変更している。

表1 質問紙(表面)

生徒用		進路に関するアンケート			
このアンケートは、研究の目的以外に使用することはない。私に私が保護を受けている大学の先生以外は見ることができないよう、厳重に保管します。このアンケートは、入校や学校の成績に関係ありません。思った通りに答えてください。					
・ 中学校名 () ・ どちらかに○をしてください。【文庫学部に在籍している・文庫学部に在籍していない】					
1. あなたは、自分の進路のことを誰に相談していますか？当てはまる番号に○をつけてください。					
4 (よく相談している) 3 (時々相談している) 2 (あまり相談していない) 1 (相談していない)					
(1) 中学校の先生		4	3	2	1
(2) 両親		4	3	2	1
(3) 学校の同級生		4	3	2	1
(4) 両親以外の家族(兄弟・姉妹・祖父母・叔親)		4	3	2	1
(5) 志望校に通う先輩		4	3	2	1
(6) その他 ()		4	3	2	1
2. あなたは、進路のことを学ぶ時に、何を参考にしていますか？当てはまる番号に○をつけてください。					
4 (大変参考にしている) 3 (時々参考にしている) 2 (あまり参考にしていない) 1 (全く参考にしていない)					
(1) (行きたい学校の)パンフレット		4	3	2	1
(2) (行きたい学校の)学校説明会やオープンスクール		4	3	2	1
(3) (行きたい学校の)ホームページ		4	3	2	1
(4) 進路に関する中学校の授業や、中学校で開催される進路説明会		4	3	2	1
3. あなたは、進路を決める時に、以下のことをどのくらい重要視していますか？当てはまる番号に○をつけてください。					
4 (とても重要だ) 3 (少し重要だ) 2 (あまり重要ではない) 1 (全く重要ではない)					
(1) 進学のしやすさ		4	3	2	1
(2) 自分の学びたいことが学べるかどうか(〇〇科、〇〇コースなど)		4	3	2	1
(3) 学力		4	3	2	1
(4) 卒業後の進学先や就職先		4	3	2	1
(5) 先生方や先輩方の雰囲気		4	3	2	1
(6) 制服のデザイン		4	3	2	1
(7) 部活動の活動実績		4	3	2	1
(8) 学校行事の充実度		4	3	2	1
(9) 評判		4	3	2	1

表2 質問紙(裏面)

●進学したい学校は、決まっていますか？その学校に進学したい理由は何ですか？

① [決まっている・決まっていない(どちらかに○をつけてください)]

② 進学したい理由(←決まっていない場合は、書かなくてよいです。)

●中学校卒業後の進路について、考え始めたのはいつ頃ですか？(1つに○をつける)

・ 小学校入学前 ・ 小学校 () 年生

・ 中学校1年生の () 学期 ・ 中学校2年生の () 学期 ・ 中学校3年生の () 学期

●進学したい学校はいくつありますか？進学の候補となっている学校名を書いてください。進学したい学校がない人は、ないに○をつけてください。

・ ある (学校名:)
(学校名:)
(学校名:)

・ ない

●進路のことで悩んだことはありますか？それは、どのような悩みですか？

ある・ないを選び、○をつけてください。ある場合は、どのようなことに悩んでいるか書いてください。

・ ある

・ ない

3. 調査結果と考察

(1) 進路に関する相談相手

図1～図4は、進路のことを誰に相談しているか尋ねた設問の回答結果である。相談相手として想定される人物5名と「その他」の項目を加え、それを「4よく相談した」「3時々相談した」「2あまり相談しなかった」「1相談しなかった」の4件法で尋ね、当てはまる番号を丸で囲んでもらった。

中学校3年生や所属校の生徒などは、中学校の先生と保護者に「4よく相談した」「3時々相談した」と回答する者が多かった。友人や先輩ではなく、身近な大人に相談する傾向にあることが分かった。一方で保護者は、上記に加えて「家族」が相談する相手として上位に上がってくる傾向が見られた。全体的には、中学校の先生が全対象者の上位に挙がっていることが分かり、相談相手として中学校の先生が重要なポジションにいることが明らかになった。

堀井(2022)は、K市中学校3年生70名の生徒を対象に同様の調査を行っている。対象者は通常学級に在籍する生徒である。その調査では、進路に関する相談相手が中学校の先生に続いて、塾の先生という調査結果を得ている。

一方、特別支援学級に在籍する生徒を対象とした本調査においては、「その他」を選択し、塾の先生と回答した生徒が1名のみであった。本調査では、塾に通う生徒と通っていない生徒数を調査できていないものの、回答結果から、塾に通う生徒が少ない可能性が示唆された。

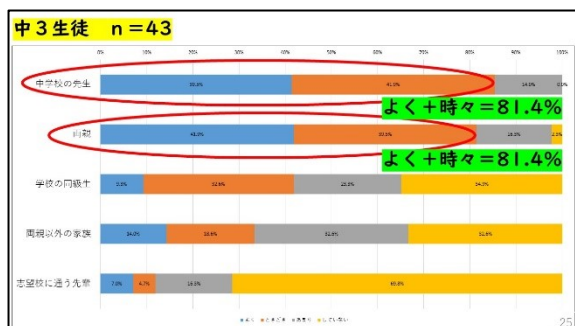


図1 中学校3年生の結果



図2 中学校3年生の保護者の結果



図3 所属校生徒と所属校以外の方の結果



図4 所属校保護者と所属校以外の方の結果

(2) 進路を学ぶ時に参考にしてしているもの

図5～図8は、進路のことを学ぶ時に参考にしてしているものを尋ねた設問の回答結果である。4つの項目ごとに「4大変参考にしてしている」「3時々参考にしてしている」「2あまり参考にしていない」「1全く参考にしていない」の4件法で尋ね、当てはまる番号を丸で囲んでもらった。

全対象者が、「学校説明会やオープンスクール」を最上位に挙げている。直接学校を見学したり体験したりすることが進路選択をする上で大変参考になっていることが分かった。また、ホームページが最も低い数値であった。ホーム

ページやブログに力を入れる方針を打ち出している学校もあり、広報活動に一考を与える結果であると言える。



図5 中学校3年生の結果



図6 中学校3年生の保護者の結果



図7 所属校生徒と所属校以外の方の結果



図8 所属校保護者と所属校以外の方の結果

(3) 進路を決める際に重要視しているもの

図9～図12は、進路を決める際に重要視しているものを尋ねた設問の回答結果である。9つの項目ごとに「4とても重要だ」「3少し重要だ」「2あまり重要ではない」「1全く重要ではない」の4件法で尋ね、当てはまる番号を丸で囲んでもらった。

中学校3年生は、全項目が高い数値となっており、進路選択において重要視するものが絞りきれっていないか、幅広い選択肢から進路選択をしようとしていることが示された。その他の対象者である所属校生徒や保護者らは、「制服のデザイン」「部活動の活動実績」をあまり重要視していないことが分かった。また、全対象者が「卒業後の進学先や就職先」「学びたいことが学べるか」といった項目の数値が高く、進学後の就職先や、進学先を卒業した後の人生に目を向けていることもデータから読み取ることができる。



図9 中学校3年生の結果

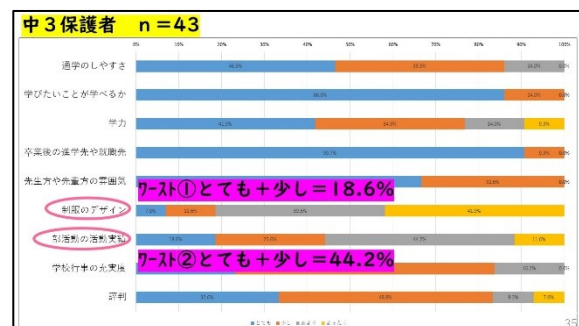


図10 中学校3年生の保護者の結果

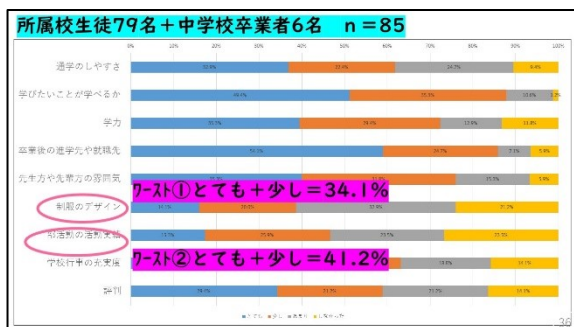


図 11 所属校生徒と所属校以外の方の結果

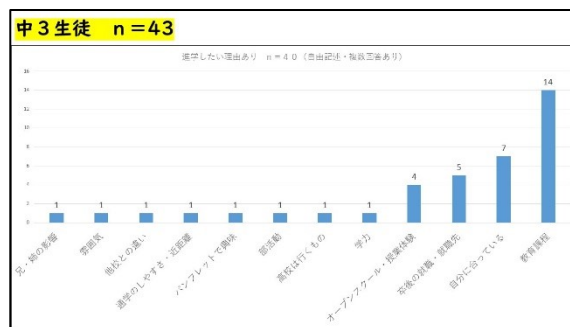


図 13 中学校3年生の結果



図 12 所属校保護者と所属校以外の方の結果

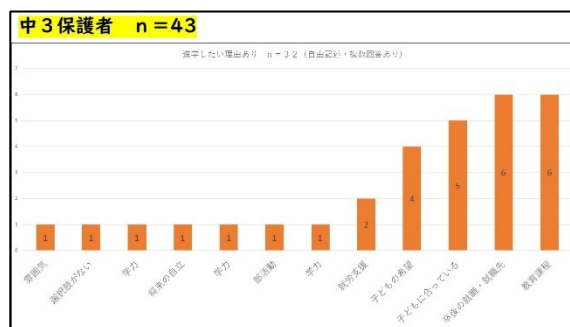


図 14 中学校3年生の保護者の結果

(4) 進学したい学校は決まっているか

図 13～図 14 は、進学したい学校を尋ねた設問の回答結果である。また、決まっている場合は、選んだ理由も自由記述で回答してもらった。なお、この設問は中学校3年生とその保護者のみに設定した。

中学校3年生で進学したい学校が決まっていない生徒は1名であった（無記名2名）。選んだ理由で最も多かった回答は、教育課程であった。その学校の教育課程に興味関心をもったり、魅力を感じたりして選んでいたことが分かった。保護者については、決まっていないが8名であった（無記名3名）。中学校3年生の9月以降においても選択に悩む保護者がいることが分かる。選んだ理由は、「教育課程」「卒業後の就職や就職先」「子どもに合っている」など、多岐に渡った回答が得られた。進学させることが目的ではなく、進学先の卒業後も見越していることが保護者特有の視点ではないかと考える。

(5) 進学した学校を選んだ一番の理由

図 15～図 16 は、進学した学校を選んだ理由を尋ねた設問の回答結果である。なお、この設問は中学校を卒業した所属校の生徒や、所属校以外の中学校卒業生、その保護者のみに設定した。

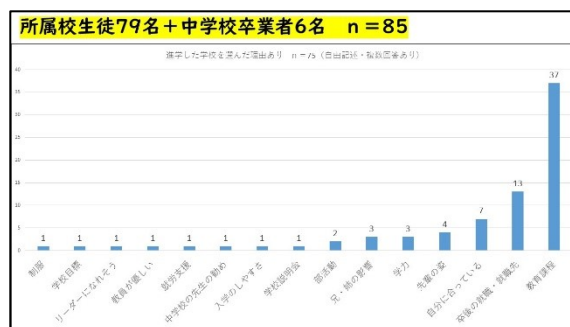


図 15 所属校生徒と所属校以外の方の結果

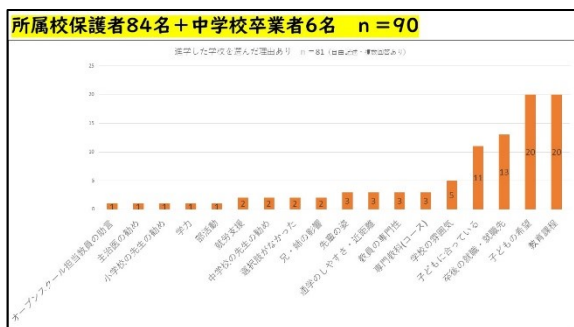


図 16 所属校保護者と所属校以外の方の結果

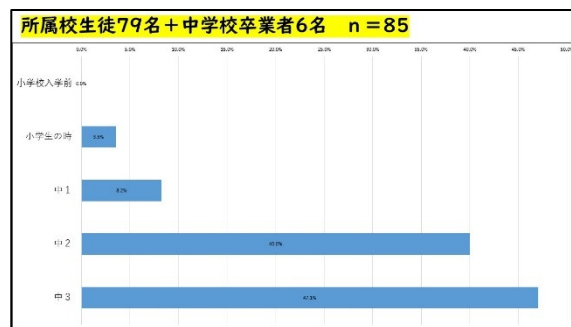


図 19 所属校生徒と所属校以外の方の結果

(6) 進路について考え始めた時期

図 17～図 20 は、中学校卒業後の進路について、考え始めた時期を尋ねた設問の回答結果である。生徒より保護者の方が早い段階から考え始めていることが分かった。数名の保護者は、小学校入学以前から中学校卒業後のことを考えている方もいた。生徒は中学校 2 年生もしくは 3 年生で考え始める傾向にあり、中には中学校 3 年生の 2 学期に考え始めた生徒も一定数存在した。



図 20 所属校保護者と所属校以外の方の結果

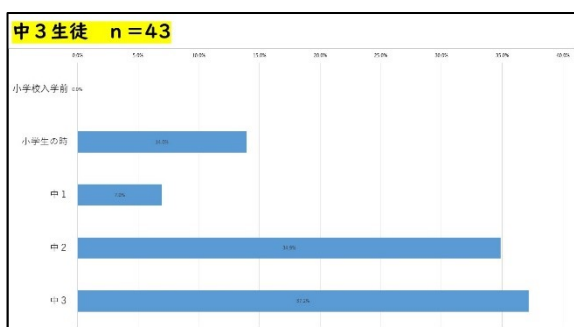


図 17 中学校 3 年生の結果

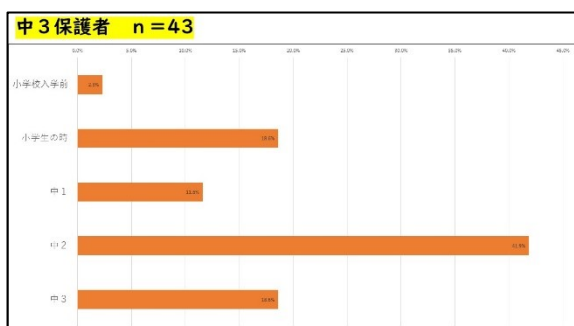


図 18 中学校 3 年生の保護者の結果

(7) 進学候補の学校

図 21～図 24 は、中学校卒業後の進学候補となっている、または進学候補だった学校名を高等学校と支援学校に分類した結果である。なお、質問紙には、最大 3 校まで記述できるようになっている。

中学校 3 年生は、全員の進学候補校が明確になっていた。その他の対象者は、進学候補校が「なし」「なかった」を選択している。特に、所属校の生徒、保護者は 50%以上がそのように回答している。



図 21 中学校 3 年生の結果

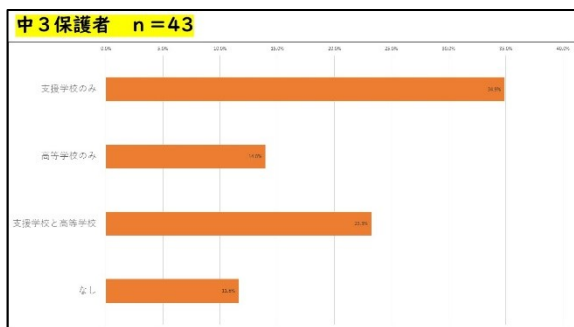


図 22 中学校3年生の保護者の結果

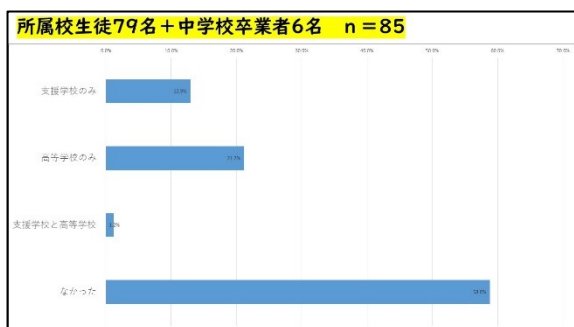


図 23 所属校生徒と所属校以外の方の結果

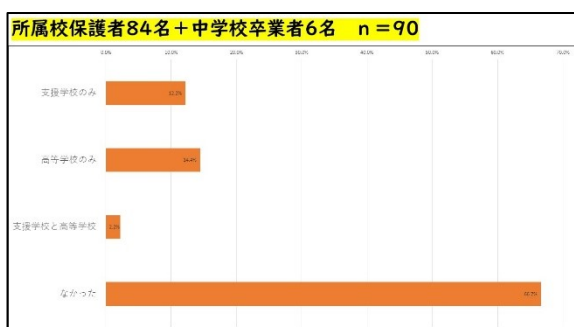


図 24 所属校保護者と所属校以外の方の結果

(8) 進路に関する悩み

図 25～図 28 は、自由記述で記載された進路に関する悩みを、筆者が分類し、グラフで示したものである。また、自由記述の前に悩みの有無についても尋ねている。

中学校3年生は、悩みがあると回答した生徒が 17 名 39.5%であった。記載された悩みを分類すると、図 25 のように、受験の当事者として入試の可否に悩んだり、地域の小中学校を離れ、遠方の学校を志望することで通学に悩んだりしていることが分かった。一方で、中学校3年生の保護者は、30 名 69.8%の方が悩みを抱

えていることが分かった。図 26 のように、子どもに合った学校選びに苦慮しており、学力と併記して書かれていることが多かった。また、「家族や親族で支援学校に進んだ者がおらず、卒業後のビジョンがはっきり見えない。」の記述があり、保護者を取り巻く環境下でロールモデルになる人物が身近に存在せず、先を見通せない不安だけが募っていくことを窺い知ることができた。

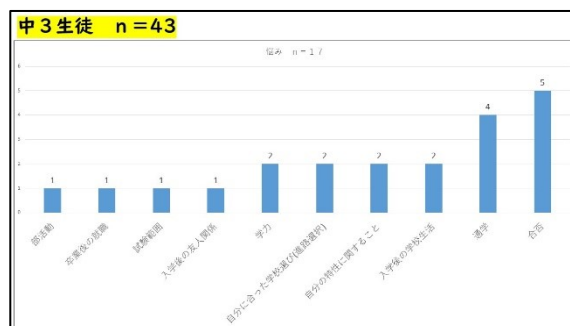


図 25 中学校3年生の結果



図 26 中学校3年生の保護者の結果

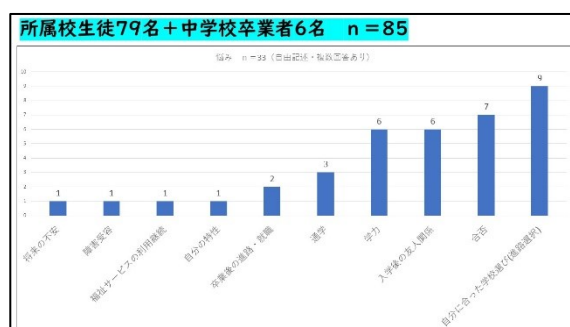


図 27 所属校生徒と所属校以外の方の結果



図 28 所属校保護者と所属校以外の方の結果

4. 終わりに

本研究は知的障害のある生徒とその保護者への意識調査を実施し、「(1)進路に関する相談相手」～「(7)進路に関する悩み」の7つの内容の調査結果を対象に考察してきた。

調査結果を概観すると特筆すべきは、「(7)進路に関する悩み」の調査結果に示された中学校3年生保護者の「家族や親族で支援学校に進んだ者がおらず、卒業後のビジョンがはっきり見えない。」という切実な悩みである。障害のない保護者にとって、身近にモデルケースがないことは、我が子の将来像を想起できず、先を見通せない不安を抱えてしまうことが分かった。もっと身近で気軽に進路のことを相談できる相手が存在すれば良いものの、現状は「(1)進路に関する相談相手」の調査結果で示すように、中学校の先生が多数を占める。通常学級に在籍する生徒は、堀井(2022)の調査によれば、相談相手として頼りにするのは中学校の先生に続いて塾の先生が多数を占めた。異なる二つの専門家、つまり中学校と塾のそれぞれの先生へ相談することで、複数の角度から進路に関しての悩みを検討できることが分かった。しかし、本調査結果からは、障害のある生徒や、その保護者にとって、中学校の先生のみが信頼できる相談相手となるしかない状況が示唆されており、中学校の先生の役割が重要であることが明らかになった。しかし、そうであるからといって、中学校の先生のみを負担を強いることは得策ではない。指導に自信がない先生や、「やまなし特別支援教育推進プラン 2020」でも示されるように、特別支援に関する免許を保有していな

い場合もあるからである。地域のセンター的機能を担う特別支援学校や、総合教育センターなどのシステムや機関を積極的に活用することや、特別支援学校との相互人事交流を実現させ、活性化させながら専門性を高めていく方法が考えられる。そのような取り組みから、知的障害のある生徒が、より良い進路選択をできるよう指導支援をしていくことが望ましい。

謝辞

調査に御協力いただきました多くの生徒や、保護者の皆様に感謝申し上げます。進路選択に直面する生徒の不安や、子どもに寄り添う保護者の悩みなど、進路決定に至る大変貴重な意識や考えを窺い知ることができました。

引用参考文献

- ・久留康裕 (2022)「中学校特別支援学級における進路指導の実際と充実に向けてー進路指導用リーフレットの提案ー」『山梨大学教職大学院令和3年度教育実践研究報告書』p.55-62
- ・堀井孝(2022)「中学3年生の進路意識の変容と高校選びー定期的調査から見取る意識向上の要因と情報への接し方ー」『山梨大学教職大学院令和3年度教育実践研究報告書』p.63-70
- ・文部科学省 (2011)『中学校キャリア教育の手引き』教育出版 p.34-35
- ・文部科学省 (2022年3月15日)「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する報告書案」
- ・文部科学省 (2022年12月13日)「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
- ・渡邊雅俊 (2013)「不本意入学に至った発達障害のある中学生における進路決定過程に関する事例研究」『教育実践学研究:山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 18巻』p40-p47
- ・山梨県教育委員会 (2020)「やまなし特別支援教育推進プラン 2020」
- ・山梨県教育委員会 (2023)「令和4年度山梨の特別支援教育データ編」